

「電化製品紹介」

池本淳一（大阪大学大学院人間科学研究科博士課程・蘭州理工大学日本語教員）

ところかわれば品変わる、と申しますが、中国には日本ではあまり目にしないような電化製品が売られています。そこで今回は、我が家にある電化製品をご紹介します。

中国は物価が安いですが、電化製品を買う場合、中国製でも国内市場向けにつくられたものは安く、国際市場向けに作られたものは高い、というのが基本です。

つまり、パソコンやデジカメなんかは日本で買ったほうがいいです。

また、中国の中古電化製品市場は、修理やチェックをほとんどせずにそのまま売られていることもしばしばですのでご注意ください（うわさでは盗品もまざっているとか。特に携帯電話は要注意！）。

まあそれはさておき、今回は我が家のエースたちをご紹介します。



このタレ目ウサギは、「噴霧加湿器」というもので、いわゆる加湿器です。

蘭州市内の電子城（小さな個人商店の電気屋が寿司詰め状態でつまっているところ）で、270 円で購入。

中国の内陸部はすごく乾燥しているので、島国の人間には辛いものがあります。

蘭州は市内以外は砂漠又は禿山の超乾燥地帯なので、さすがに中国に長い私も耐え切れず、コイツを購入してしまいました。

噴霧器にもいろいろ種類がありますが、もともとが単純な機械なんで、機能的にはあんまり差はないかと。ただデザインは無骨な箱型から、かわいらしいピ〇チュウ型までいろいろ

あります。

ちなみに乾燥が酷いと、まず鼻の奥が痛くなります。次に喉がやられ、あっというまに風邪を引きます。しかし私の場合、乾燥していた方が肌荒れがなく、逆に快適なんです。

まあそれはさておき、カラカラの日々にはコイツが大活躍ですよ。

で、これが彼女の仕事振りです↓



それ！湿らせろ！！ なぜ耳から？は秘密。

ちなみに、電氣的なナニで蒸気にしているらしく、この湯気は熱くありません。



やりすぎ。

ちなみに、霧レベルを「強」にしたまま一晩つけると、窓ガラスの下がべっちょべっちょになります。またうわさでは、あまり湿度を高めすぎると本にカビがはえるそうです。なにごとともほどほどに。



これは「泡脚盆」。この桶状の中に水を入れると、ジェットバス方式で前から適温のお湯が流れてくるといふもの。ここに足首をつけて温まります。いわゆる脚湯ですね。これはデパートで330円で買いました。意外に高いような気がします。

中国ではほとんどの家に風呂釜がなく、簡単なシャワーしかありません。

はじめこの器械を見た時は、「中国の人もお風呂に入りたいのかな」と思っていたのですが、どうもコレはお風呂から進化したモノではないようです。中国には、寝る前には脚を洗ったり、お湯に足首を浸すという習慣があり、その延長線上にこのようなマシーンが生まれたと思われまふ。

日本では全身浴→簡易浴槽としての脚湯（または健康法）ですが、こちらでは脚洗い→マシーン化です。

一見、同じようなものでも、その現代化の過程は異なるという良い例と思うのですがいかがか。



温度は 50 度まで調整可能。適温は 41 度。だいたい三十分ぐらいつかるのがベストです。この足湯の便利なところは、本を読んだりテレビを見ながらできることです。寝る前にすると、ぐっすりとよく眠れます。

さて次は暖房器具たちです。



光り輝く銀色ボディ。さび止めの意味もかねて、厚く銀色のペンキが塗られています。

これは中国の北方地方ではお馴染みの、「暖気 (ヌアンチー)」です。このパイプの中をお湯が循環しています。触ってみると生暖かい程度ですが、お湯は一日中循環してますの

で、家の中はいつでもあったかです。ちなみにふつう一部屋にひとつ設置されており、団地の中央ボイラー室から各部屋にお湯が供給されています。

この設備のお陰で北方の冬場は意外に日本より快適だったりするんですが、この暖気システムは市によって管理されているため、開始期間が決められています。ちなみにここ蘭州では、今年は11月1日から始まるそうです。また温度も自分では設定できませんので、もの凄く寒い日にはこれだけではちょっと心もとないです。

そこで、中国でもいろいろな暖房機が発売されています。



安全且つ広範囲をカバー。

これは「暖気」を模して作った「電暖気」。移動式です。意外に安く、150元でした。ヒーターと異なり、火事の心配がありません。ここ蘭州では、今年は十月に入ってからいきなり寒くなりましたので、まだ暖気システムが稼働していない十月現在、我が家では噴霧器とともに、就寝時に大活躍しています。



ピンポイントをカバー。

日本にもありますが、一応ご紹介。ハロゲンヒーターです。中国で売られているヒーターのほとんどは、このタイプです。お値段は55元。

実はこのハロゲン、先日ヒーター部分が壊れてしまいました。享年2週間。

で、さっそく購入した店に走り、新品と取り替えてもらいました。基本的に電化製品は壊れやすいので、レシートと保証書は必ず保管しておきましょう。



お次は暖房器具ではないんですが、ウチの取り付け式シャワー「熱水器」です。このタンクに水を引き入れて、適温まで沸かし、シャワーに使います。あまり使いすぎるとタンクのお湯がカラになり、冷や水を浴びせられることに。水は大切に。

中国の多くの家庭では、シャワーといえばほとんどがこの取り付け式です。なぜかといえば、多くのマンション（公寓）は、もともとは「単位」が福利厚生の一環として供給していた集合住宅であり、当時はお風呂は「単位」の中の公衆浴場で浴びるものでしたので、各家庭の部屋には入浴施設がありませんでした。

しかし現在では家庭での入浴希望者が増えたため、家でもシャワーが浴びられるようにと、このような機器が後から取り付けられることとなったのです。

それゆえ古いマンションになればなるほど、専用のシャワー設備、というよりもシャワーを浴びる空間がなく、結果的にトイレだった場所にこれを備え付け浴室としています。

このシャワー室、もともとがトイレですから、ものすごく狭いです。ウチの場合、ほぼ便器と向かい合ってシャワーを浴びる形になります。究極のユニットバスです。



なぞの左レバー

これはお馴染みの水タンク「飲水器」。ちなみにこの水はミネラルウォーターではなく、水道水を飲めるように濾過とかなんとかしたものだそうです。この上のタンクは、ウチでは一タンク6円で、電話一本で持ってきてくれます。ちなみに正面のレバーは、一番右が

お湯、真ん中が水（しかし隣の余熱？でいつも生暖かいですが）です。で、左は何も出ません。何がでる予定だったのでしょうか。油？



まーまーまーまっ。

最後は「複読機」。これは語学学習用の機会で、テープを入れて使います。いわゆるリスニング用のマッシーンなのですが、便利なことに、今再生した箇所を直ぐにまき戻し（正確には内蔵マイクで録音した音声ですが）して聴くことができます。つまり聴き取りにくかった部分を反復したり、また単語の正確な発音を聞いて練習するさいに使います。中国語は発音が難しい言語ですので、私は随分これに助けられました。ノートパソコンと並んで、使用頻度の最も高い機器です。ちなみにお値段は大体 150 元～200 元ぐらいです。大学構内でよくたたき売りしています。

というわけで、池本はこんなマッシーンに囲まれてながら過ごしています。

ではでは、今回はこのへんで。

(2007 年 10 月 18 日 事務局受理)